

浸水

廿日市市 ハザードマップ

宮島地域版



「浸水ハザードマップ」とは

このマップは洪水、津波、高潮、土砂災害時に避難する場所や注意すべき箇所をまとめたものです。「災害時に危険となる場所はどこなのか?」「自宅の最寄りの避難場所はどこなのか?」を確認しておきましょう。また、災害はいつ発生するかわかりません。いざという時に、落ち着いて行動できるように、このマップを使って家族や地域で話し合ってみてください。



避難場所		家族の集合場所	
連絡先	電話番号	連絡先	電話番号

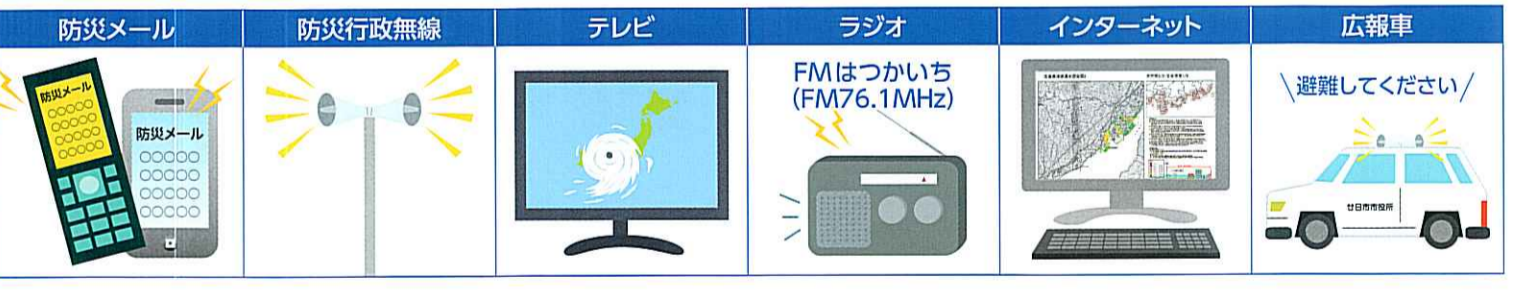
すぐに持ち出せる所に保管して下さい。

お問い合わせ 廿日市市 総務部 危機管理課 危機管理係
TEL (0829) 30-9102 FAX (0829) 32-1059

情報を集めよう!

防災情報の伝達

雨量や潮位・水位に関する情報、避難や防災に関する情報は、次の方法で市民のみなさんに伝わります。梅雨時期や台風時期には、テレビ・ラジオ・インターネットなどを通じて積極的に情報を入手し、事前の備えを万全にしましょう!



ホームページや携帯電話による気象情報・防災情報

ホームページや携帯電話からも、最新の「気象・防災情報」が入手できます。

廿日市市の様々な情報を入力!

廿日市市役所ホームページ

主な掲載内容
■ 各種防災情報
■ 各種災害情報
■ 避難施設マップ
■ 被災者支援情報

■ Webアドレス
http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/

パソコン/携帯電話 広島県内の総合防災情報サイト!

広島県防災Web

主な掲載内容
■ 防災気象情報(台風・地震情報も)
■ 天気予報
■ 観測情報(雨量・水位など)

■ Webアドレス
https://www.bousai.pref.hiroshima.lg.jp/

パソコン 広島県内の高潮・津波浸水想定区域図を提供!

広島県高潮・津波浸水想定区域図

主な掲載内容
■ 高潮・津波の浸水想定区域
■ 河川浸水想定区域
■ 土砂災害警戒区域図・特別警戒区域図

■ Webアドレス
http://www.takashio.pref.hiroshima.lg.jp/

パソコン 日本国内の様々な気象情報を発信!

気象庁 ホームページ

主な掲載内容
■ 気象警報・注意報、台風・洪水・土砂災害・竜巻等の防災気象情報
■ 天気予報、避難予報、1か月・3か月月の季節予報、紫外線、真砂などの情報

■ Webアドレス
http://www.jma.go.jp/

はつかいちし安全・安心メール配信サービス

市災害対策本部の設置・廃止や避難勧告・避難所開設などの災害情報、弾道ミサイル・テロなどの国民保護情報、その他緊急情報をメールでお知らせします。

メールサービス Webアドレス http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/emergency/bousai/anzanensin_mail.html

廿日市市に起こりうる災害

梅雨時期、台風時期などの雨が降る時や地震が起きた時などに、河川はん濫・内水はん濫による「浸水災害」、土石流・かけ崩れ・地すべりなどの「土砂災害」、「高潮・津波による浸水災害」など、人命や財産等に大きな被害を及ぼす「自然災害」が、廿日市市内で発生する可能性があります。

様々な自然災害から身を守るために、日頃から自分の住んでいる地域のどんな場所が危険であるかを把握し、気象情報に十分注意して、災害に備えるようにしましょう。



雨の降り方と強さの知識

1時間に10~20mm	1時間に20~30mm	1時間に30~50mm	1時間に50~80mm	1時間に80mm以上
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
地面一面に水たまりができる。	道路が川のようなになる。	水はびきであたり一面が白っぽくなり、境界が悪くなる。	水はびきであたり一面が白っぽくなり、境界が悪くなる。	水はびきであたり一面が白っぽくなり、境界が悪くなる。
傘が壊れる。話し声が聞き取れにくくなる。	どしゃ降り。傘をさしてもぬれる。	パケツをひっくり返したり、山崩れやけ崩れが起こりやすくなる。	雨のよに濡り、傘はまったく役に立たなくなる。マンホールから水が噴出したり、土石流が起こりやすくなる。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。雨による大規模な災害が発生するおそれが高い。

「津波」の知識

津波とは地震に伴う海底地盤の変動が、海面に伝わり大きな波となって海岸に打ち寄せる現象をいいます。

津波の原因のほとんどが地震
海底の地下深いところで地震が起こると、海底が持ち上がり沈み込み。一方、この海底の変形に伴って、海面が変動します。これが「津波」です。

津波の伝わり方
海底の深いところで津波は速いですが、波の高さはあまり大きくありません。一方、津波の速さは海岸に近づくにつれて速くなりますが、波の高さは大きくなります。

高潮などの波と津波の違い
津波は、海底から海面の海水全体が動かされるため、波のエネルギーは非常に大きくなります。

「高潮」の知識

高潮とは、台風や発達した低気圧により、海面が異常に高くなる現象をいいます。「低気圧による海面の吸い上げ」「風による岸への吹き寄せ」「波浪による海面上昇」が主な原因です。

低気圧による海面の吸い上げ
台風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げる結果、海面が上昇します。

風による岸への吹き寄せ
台風による強い風が沖から海岸に向かって吹くとき、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

波浪による海面上昇
大きな波が海岸に向かって連続して押し寄せると、沖に戻ることで海岸付近に多量の海水が留まり、海面が上昇します。

台風が広島県の西側を通ると、海からの風が強くなり高潮が発生する危険があります。テレビやラジオ、インターネットから台風情報を積極的に入手し、台風被害に備えましょう!

「河川はん濫」と「内水はん濫」の知識

河川はん濫
河川はん濫とは、堤防の決壊や堤防から水が溢れることにより、街中や農地などに水が流れ出す現象です。「流れ」を伴う浸水災害なので、河川の近くには近づかないようにしましょう。

内水はん濫
内水はん濫とは、降雨や高潮により河川・海水の水位が上昇し、街中や農地などの水が排水できなくなり、排水の水が溢れ出たり、マンホールから水が溢れ出る現象です。

早めに避難しよう!

避難に関する情報

「避難に関する情報」には、次の3つがあります。

- 警戒レベル3 高齢者等避難**
危険な場所から高齢者等は避難
- 警戒レベル4 避難指示**
危険な場所から全員避難
- 警戒レベル5 緊急安全確保**
危険箇所の危険直ちに安全確保!

また、津波の場合は突然起きる地震により発生しますので、大きな揺れを感じたら自主的に避難するようにしましょう!

津波警報・注意報の分類

予想される津波の高さ	想定される被害	とるべき行動
数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現	
10m超(10m>高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、安全な場所から離れないでください。
10m(5m<高さ≤10m)	巨大	同上
5m(3m<高さ≤5m)	高い	この高さ安全と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
3m(1m<高さ≤3m)	高い	同上
津波注意報	海の中では人は、早い流れに巻き込まれる。漂流いかだや小艇が転覆する。	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入った時、海岸に近づいたりしないでください。
1m(20cm<高さ≤1m)	(表記しない)	

● 震源が陸地に近いと、津波警報が津波の襲来に間に合わない場合があります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
● 津波は沿岸の地形などにより、局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
● 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配が無い場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合は、「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。

気象警報等の分類

種類	想定される事象	とるべき行動
特別警報	数十年に一度の規模の台風や同程度の温帯低気圧による気象現象で、重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合。	直ちに命を守る行動をとる (避難場所へ避難するか、外出が危険な場合は家の中の安全な場所へ移動)
警報	大雨や強風などの気象現象によって重大な災害が起こるおそれがあるとき。	危険があれば、早めの自主避難 市からの避難勧告・指示による避難 ●安全な場所へ避難 ●危険な場所には近づかない
注意報	大雨や強風などの気象現象によって災害が起こるおそれがあるとき。	避難の準備をする ●非常用持出品の確認 ●災害情報の収集

※特別警報が出ていなければ避難は必要ないということではありません。

高台・丈夫な建物へ

脱出路を確認し、火の確認、始末をしたら、高台や丈夫な建物の上層階へ避難! 海岸・河口には近づかない!!

地震発生! 津波の危険性!!

これら「避難に関する情報」が発令される前でも、身の危険を感じたら、自主的に避難するようにしましょう!
また、避難が遅れた場合(浸水が始まっている場合は)、2階以上に避難するなど「自宅待機する」方が安全な可能性もあります。自宅周辺がどのくらい浸水するかのハザードマップを確認するとともに、気象・防災情報を積極的に入手し、**早く早い避難**を心がけてください!

災害に備えよう!

地域の状況

「浸水ハザードマップ」は、家族や地域での日頃からの備えや、自主防災活動の支援を目的としています。「**地図の活用方法**」を参考に、地域にあった「わがまち防災マップ」を作成し、自分や家族の安全を守るためにご活用下さい。

- STEP 1 自分の家や地域の危険箇所を確認しよう!**
自分が住んでいる地域に、「どのような危険箇所があるか」を、地図を使って確認しましょう。
- STEP 2 防災マップを作成しよう!**
自分の家から避難場所までの経路を記入しましょう。また、「家族の集合場所」や「災害時の危険な箇所(増水時の橋)」など、気になる箇所を記入しましょう。
- STEP 3 まち歩きをしよう!(現地を確認)**
完成した「防災マップ」を持って、実際にまちを歩いてみましょう。マップ上に現れない「危険な箇所」などを発見した場合は、さらに、書き込みを行いましょう。
- STEP 4 危険な箇所を改善しよう!**
「まち歩き」で見つけた「水路の詰まり」など、地域で改善できる所は改善してみよう。ただし、危険を伴うような箇所については、無理に改善せず、市役所にお問合せ下さい。

地図の活用方法

わがまち防災マップ作成例

避難場所までの経路、避難経路(増水時の橋)など、気になる箇所を記入しましょう。

家族の集合場所
「市民センター」の2階以上
電話:0829-300000

非常用持ち出し品チェックリスト

非常用の持ち出し品	ヘルメット	手袋	懐中電灯	非常食・水
衣類	タオル	携帯ラジオ	ホイッスル	携帯電話充電器
救急セット	貴重品	身分証明書		
その他必要に応じて準備しておきましょう。	ティッシュ 紙おむつ ポリ袋	使い捨てカイロ 雨具 万能ナイフ、ライター	ロープ 粉ミルク、ほ乳瓶 筆記用具(メモ帳とペン)	健康手帳、薬手帳など

避難行動要支援者

避難行動要支援者とは、災害時に自力で安全な場所に避難することが困難な方々のことです。具体的には、障がいのある人、高齢者、乳幼児、妊婦の方々などが該当します。地域で協力しながら要支援者の安全確認や避難所への移動を支援しましょう。

高齢者	病人・体の不自由な方	目の不自由な方	耳の不自由な方	妊婦・乳幼児
1人暮らしの高齢者に声をかけましょう。必要に応じて避難所への移動をしましょう。	なるべく2人以上の複数人で協力して避難の介助をしましょう。	声をかけ情報を伝えましょう。誘導する場合は、杖を持った方の手に触れず、ひじの辺りを持ってもらい、半歩手前を持ってもらい半歩手前をゆっくり歩きましょう。	話す時は、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいように話しましょう。手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝えましょう。	妊婦さんや乳幼児を連れてきた方には、避難所への誘導をしましょう。

避難時の心得

子どもやお年寄りと一緒に避難を!

お年寄り・子ども・障害や病気のある方などは、避難に時間がかかりますので、早めの避難が必要です。避難時には、子どもや高齢者などは背負うなどの配慮をしましょう。

安全な経路で足下に注意しながら避難を!

避難時は、河川に近づくことや、かけ流しの道などには避け、雨などによりマンホールのフタが外れていた、マンホールや側溝が見えない場合があります。棒などを使って足元を確認しながら、注意して避難しましょう。

2人以上で歩いて避難を!

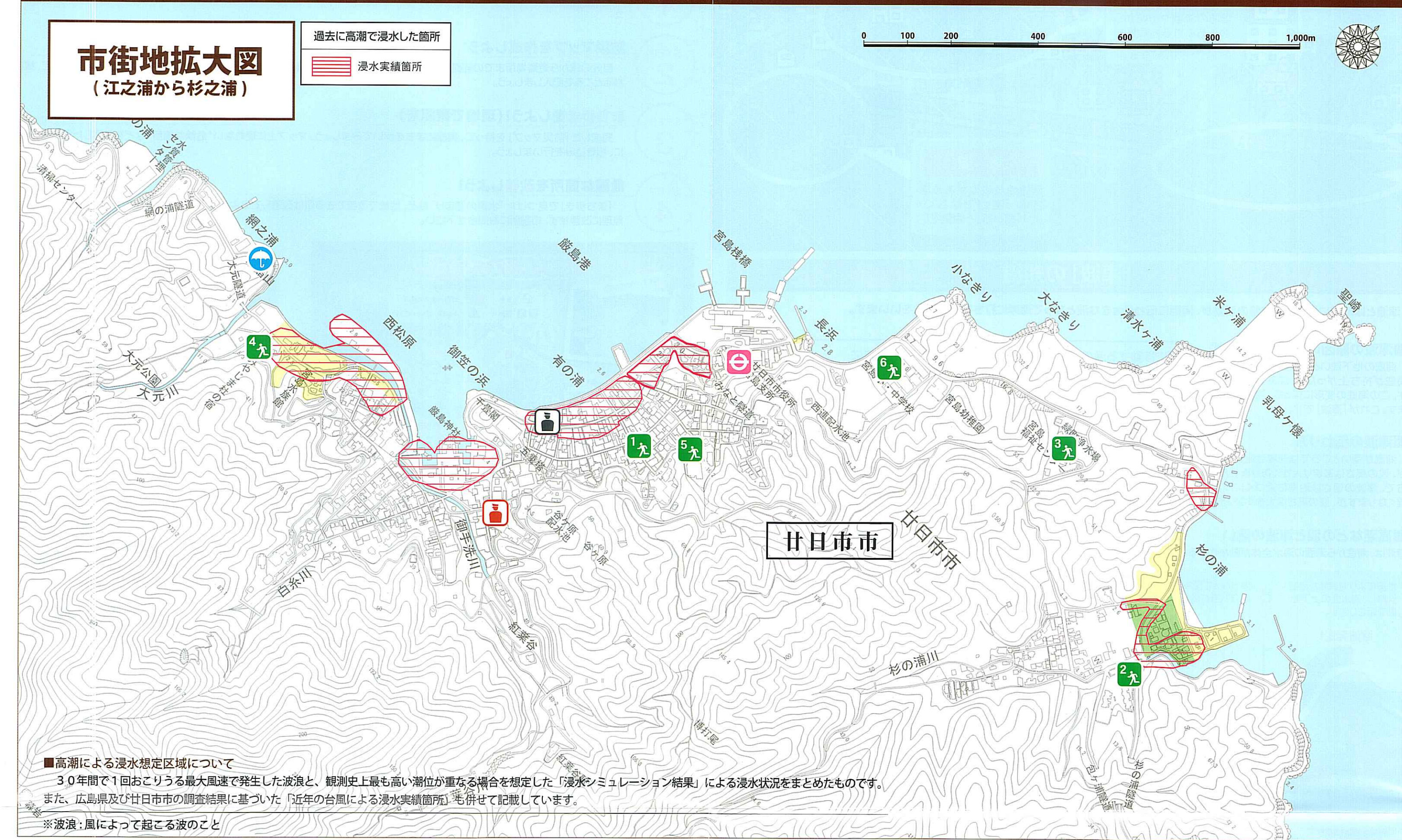
避難時は動きやすい服装で、2人以上で行動するようにしましょう。また、車の避難は、緊急車両の妨げや、水に流されるなど危険を伴いますので控えましょう。

避難時の服装

長袖・長ズボン等の安全な服を着用し、ヘルメットや防災ずきんで頭を保護しましょう。また、荷物は最小限のものにし、徒歩で避難しましょう。履物は、ひもでしめられる底の薄い運動靴が最適です。長靴は中に水が入り、歩きにくくなるため、やめましょう。

子どもや高齢者に留意し、隣近所で協力して、早期に安全な避難を!

高潮による浸水想定区域

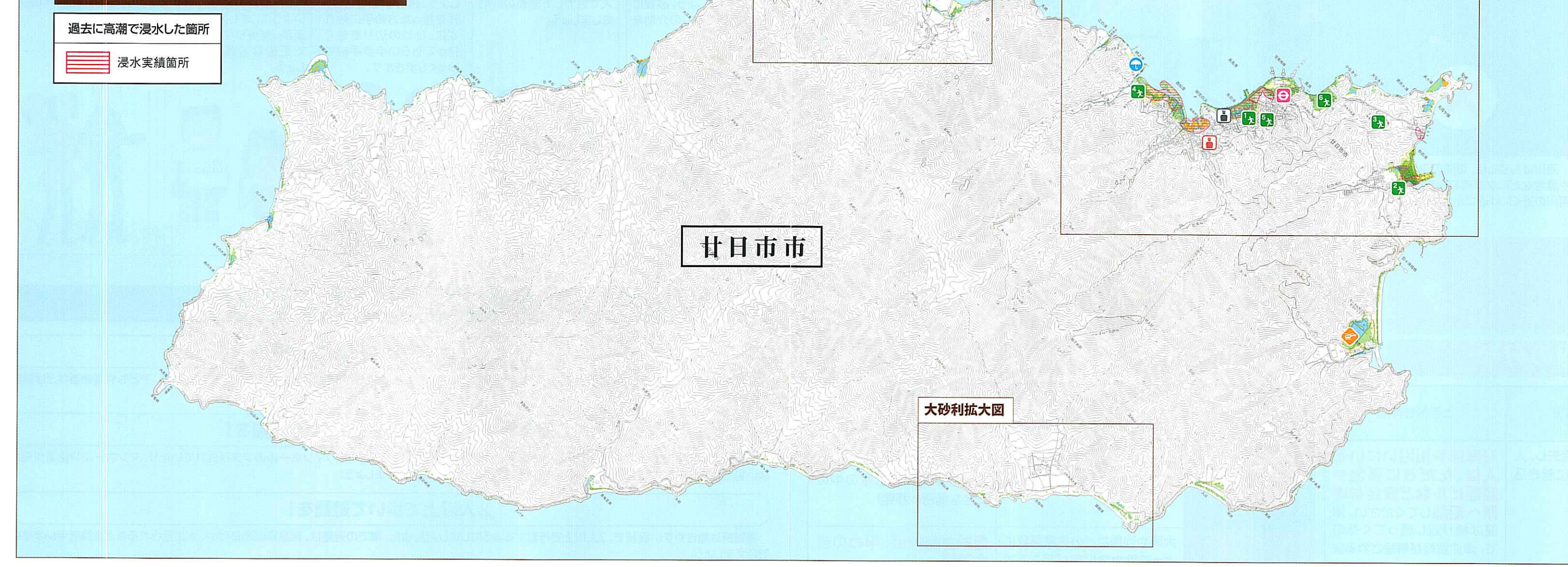


津波による浸水想定区域



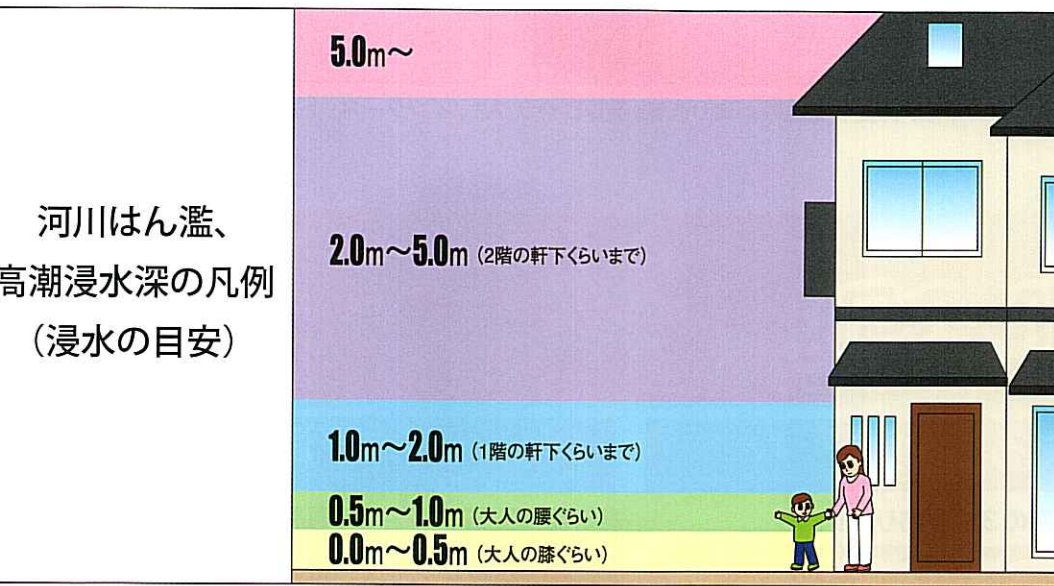
宮島全島図

〔高潮と津波による浸水想定区域〕



津波浸水深の凡例

5.0m以上	1.0m以上 2.0m未満
4.0m以上 5.0m未満	0.3m以上 1.0m未満
3.0m以上 4.0m未満	0.01m以上 0.3m未満
2.0m以上 3.0m未満	海抜5mを示した線



凡例

廿日市役所 宮島支所	警察署・派出所・交番	ヘリポート
避難施設	消防署	雨量観測所

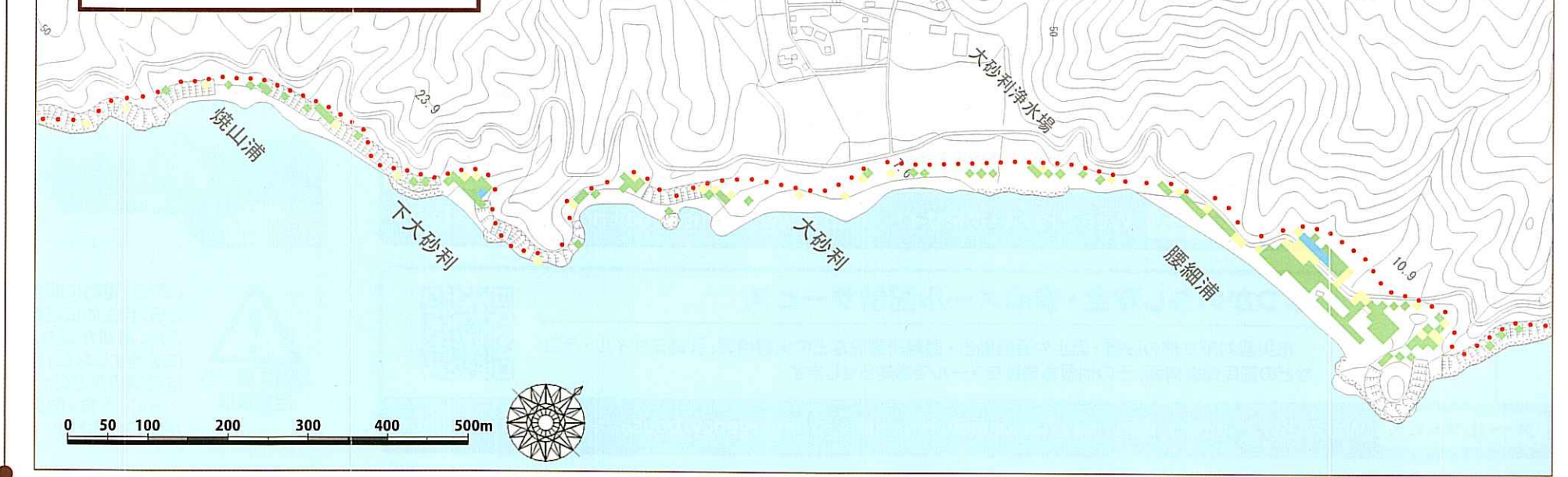
津波による浸水想定区域

室浜・多々良潟拡大図



津波による浸水想定区域

大砂利拡大図



1 避難施設一覧		指定緊急避難場所					指定避難所								
番号	施設名	土砂災害	洪水	高潮	地震	津波	番号	施設名	土砂災害	洪水	高潮	地震	津波	地震津波	左記以外
1	ひろでん宮島まちづくり交流センター	○	○	○	○	○	4	国民宿舍みやじま社の宿	○	○	○	○	○	○	○
2	宮島杉之浦市民センター	○	○	○	○	○	6	宮島学園	○	○	○	○	○	○	○
3	宮島福祉センター	○	○	○	○	○									

○ 指定緊急避難場所：切迫した災害の危険から命を守るために避難する場所で、災害種別ごとに指定
○ 指定避難所：災害により自宅に戻ることができない場合などに、一定期間避難生活を営む施設
○ 「土砂災害」「洪水」「高潮」「地震」「津波」欄中の○と階数は、その階数以上の階を避難スペースとして使用することと表しています。

災害用伝言ダイヤル「171」

忘れて「171」
000

災害発生時(震度6弱以上の地震など)に稼働する、NTTの災害用伝言ダイヤルサービスです。

利用方法
伝言を録音する
伝言を再生する

171
局番などで「171」をダイヤルし、音声ガイダンスにしたがって...

1 「1」を選択
「被災地の方」は自分の電話番号を、「被災地以外の方」は被災地の方の電話番号を(市外局番から)(0829) 00-0000→伝言を録音する(30秒以内)

2 「2」を選択
「被災地の方」は自分の電話番号を、「被災地以外の方」は被災地の方の電話番号を(市外局番から)(0829) 00-0000→伝言を再生する(30秒以内)

※サービスの開始はテレビやラジオで通知されます。「171」に関するご質問等は、局番なしの「116」、又は番号のり NTT 支店・営業所へお問い合わせください。
災害用伝言ダイヤル「171」は、一般加入電話・公衆電話・携帯電話・PHS でご利用できます。
※携帯電話・PHS は一部事業者を除く

⚠ マップに関する注意事項

① 浸水想定区域は、想定した危険箇所すべてで「堤防を越えて水が溢れる、堤防が決壊する」ことを仮定して作成したものです。したがって地図上のすべての浸水想定区域が同時に必ず浸水するというものではありません。

② 突発的な大雨が降った場合などには、中小河川のはん濫や、側溝・マンホールから水があふれるなどして、地図に示した浸水想定区域以外の場所でも浸水する可能性があるため、注意してください。